

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	秋詠
Author(s)	井上, 縫三郎
Citation	龍南, 193: 59-59
Issue date	1925-03
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/8788">http://hdl.handle.net/2298/8788</a>
Right	

晴れゆくと思ひしに空のまたくもり風いでたれや木の葉さわげる  
行きずりに仰げば寒し松なみ木夜風こもりて鳴り止まずけり  
うすあかく芽ぐめる梅のしたしさや曇りほのぬくき軒の端に見ゆ  
夜の風のあまりに寒くおのづからあゆみはかどり利心もなし

## 秋

## 詠

井 上 縫 三 郎

山深み長門の峽肌寒し樺の葉ははや黄ばみけるかも  
渡場の夕べを雨のふりいでゝ枯葉をゆする風のさはめき  
ひさぶくに牧場に來りゆえもなく乾草の香にしたしみおぼゆ  
老ひし父さびしき母は如何ならむかくも静けく雨ふる夜は  
せゝらぎの音はさむけし朝霧は深くこめたり白川の橋  
電燈の光お暗らき停車場の朝寒けく人は默せり  
冬近き山峽の驛笛の音の遠くひゞきて霧うすれゆく  
夕近き巷の音にまじりくるチャルメラの音はさびしかりけり